

2015 年 10 月 27 日

1. 基本情報

- (1) 国名：カンボジア王国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：シハヌークビル特別市
- (3) 案件名：シハヌークビル港新コンテナターミナル整備計画
(Sihanoukville Port New Container Terminal Development Project)
- (4) 事業の要約：本事業は、カンボジア唯一の大水深港であるシハヌークビル港において、新コンテナターミナルの整備を行うことにより、本港の貨物取扱能力の向上及び物流機能の強化を図り、もって同国における経済基盤の強化に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 当該国における港湾セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け
カンボジアの主要国際港は、タイ湾に面したシハヌークビル港（以下「本港」という。）と、首都プノンペンのメコン河岸にあるプノンペン港の 2 港がある。プノンペン港は河川港のため貨物取扱量に制約があり、同国唯一の大水深港である本港が大型/コンテナ船による貨物のほぼ全量を取扱う主要港である。本事業は本港のコンテナ貨物取扱能力の拡張のため、新たにコンテナターミナルの建設と機材の導入を行うものである。

本港におけるコンテナ貨物の取扱量は、縫製品産業の伸長を始めとする同国の堅調な経済成長に支えられ、2009 年以降の 5 年間で年平均 10%増加しており、2014 年は前年比 17%増とそのペースは加速している。日本が過去、円借款事業で修復、拡張を支援した本港のコンテナ貨物取扱能力は既に逼迫しており（取扱能力 35 万 TEU、2014 年実績 33 万 TEU）、運営を担うシハヌークビル港湾公社（Port Authority of Sihanoukville : PAS）は、クレーンの増設及びオフドックヤードの整備により短期的な対策を実施する予定であるが、伸び続ける需要に対し、2020 年前後には既存コンテナターミナルの容量が限界に近づくことが見込まれている。本港の拡張は、国家戦略開発計画（National Strategic Development Plan: 2014-2018）において、最優先事項の一つである運輸インフラの整備を実現するためのアクションプランの一つに位置付けられている。

- (2) 港湾セクターに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

また、我が国の対カンボジア事業展開計画（2015 年）において、重点分野の一つである「経済基盤の強化」の中で開発効果が高く経済活動の基軸であるシハヌークビル港周辺の整備は優先的に取り組むとしており、対カンボジア国 JICA 国別分析ペーパー（2014 年）において、経済基盤の強化を重点分野とし、本港の整備は物流機能の強化のための重点課題であると分析していることから本事業はこれら計画等に合致する。

日本はこれまでカンボジア国全体の発展を支える本港に対し、各スキームを通じて支援してきた。具体的には、開発調査「シハヌークビル港整備計画調査」(1997 年)

「シハヌークビル港競争力強化調査プロジェクト」(2012 年)で港湾拡充計画を策定し、円借款「シハヌークヴィル港緊急リハビリ事業」「シハヌークヴィル港緊急拡張事業」「シハヌークヴィル港経済特別区開発事業」(1999 年、2004 年、2007 年承諾)で港湾設備の整備を進め、技術協力「港湾管理運営能力強化プロジェクト」(2007 年-2009 年)で運営効率化を支援し、更に無償資金協力「主要国際港湾保安施設及び機材整備計画」(2006 年)でセキュリティ施設・機材を整備した。

(3) 他の援助機関の対応

ADB が支援している鉄道リハビリ事業でプノンペン-シハヌークビル間の鉄道が整備された。

(4) 本事業を実施する意義

本事業は、物流機能の強化に資するものとしてカンボジアの開発課題に対応し、また、同国の開発政策、我が国の国別援助方針、JICA の重点分野と整合していることから、事業の実施を支援する必要性及び妥当性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本事業は、カンボジア唯一の大水深港であるシハヌークビル港において、新コンテナターミナルの整備を行うことにより、本港の貨物取扱能力の向上及び物流機能の強化を図り、もって同国における経済基盤の強化に寄与するもの。

② 事業内容

i. 施設、機材等の内容：

1)コンテナターミナル・バースの整備 (18.9ha)、2)アクセス路の整備、3) 航路・泊地の浚渫、4)機材（ガントリークレーン等）の調達、5)管理棟、整備棟の建設（調達・施工方式は協力準備調査にて確認）

ii. コンサルティングサービスの内容：

詳細設計、入札補助、施工監理等（ショートリスト方式）

③ 他の JICA 事業との関係

現在、本港においてバルク貨物取扱能力の増強及びオイルサプライベースの整備等を目的とした円借款「シハヌークビル港多目的ターミナル整備事業」を実施中である。また、技術協力「シハヌークビル港コンテナターミナル経営・技術向上プロジェクト」により PAS の(1)戦略的運営能力向上、(2)コンテナ荷役効率改善、(3)大型荷役機械保守点検能力向上を支援しており、その成果が本事業で整備する設備の運用・維持管理に活かされることが期待できる。

(2) 事業実施体制

① 借入人：カンボジア王国政府（The Royal Government of Cambodia）

② 事業実施機関／実施体制：シハヌークビル港湾公社（PAS）

③ 他機関との連携・役割分担：特になし

④ 運営／維持管理体制：本事業の実施機関である PAS の運営・維持管理能力及び財務体質に特段の問題はない。新コンテナターミナルの運営・維持管理に十分な人員が確保できるかどうか及び経済財政省から転貸を受けて本事業を実施することによる財務体質への影響について詳細は協力準備調査にて確認する。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 ☐A ☒B ☐C ☐FI

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）上、セクター特性、事業特性および地域特性に鑑みて、環境への望ましくない影響が重大でないと判断されるため。

(4) 横断的事項：協力準備調査にて確認

(5) ジェンダー分類：協力準備調査にてジェンダー主流化ニーズを確認する。

(6) その他特記事項：特になし。

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

カンボジア国の円借款「シハヌークビル港緊急リハビリ事業」及び「シハヌークビル港緊急拡張事業」の事後評価結果等から、多くの船舶が入港する週末にはトラック・トレーラーが集中し近隣地域の交通の妨げになっていることからゲート周辺道路の拡幅工事等も検討に値するという教訓が得られている。本事業においては、上記教訓を踏まえ、輸送車両の増加に対応するための施策も併せて実施することを検討する。

以 上

[別添資料] 地図

シハヌークビル港新コンテナターミナル整備計画 地図

